

【出典】国勢調査

图 5-25 地域別人口增加率

3) 高齢化

周辺部で進む高齢化

長岡都市圏の65歳以上の高齢化率は平成12年で20%と、ほぼ県平均(21%)と同程度であるが、周辺部の出雲崎町、小国町、旧山古志村などでは30%を超える。将来的な推計では、さらに高齢化が進展することが想定されており、平成27年では圏域全体で28%となり、周辺部では30%を超えることが想定される。

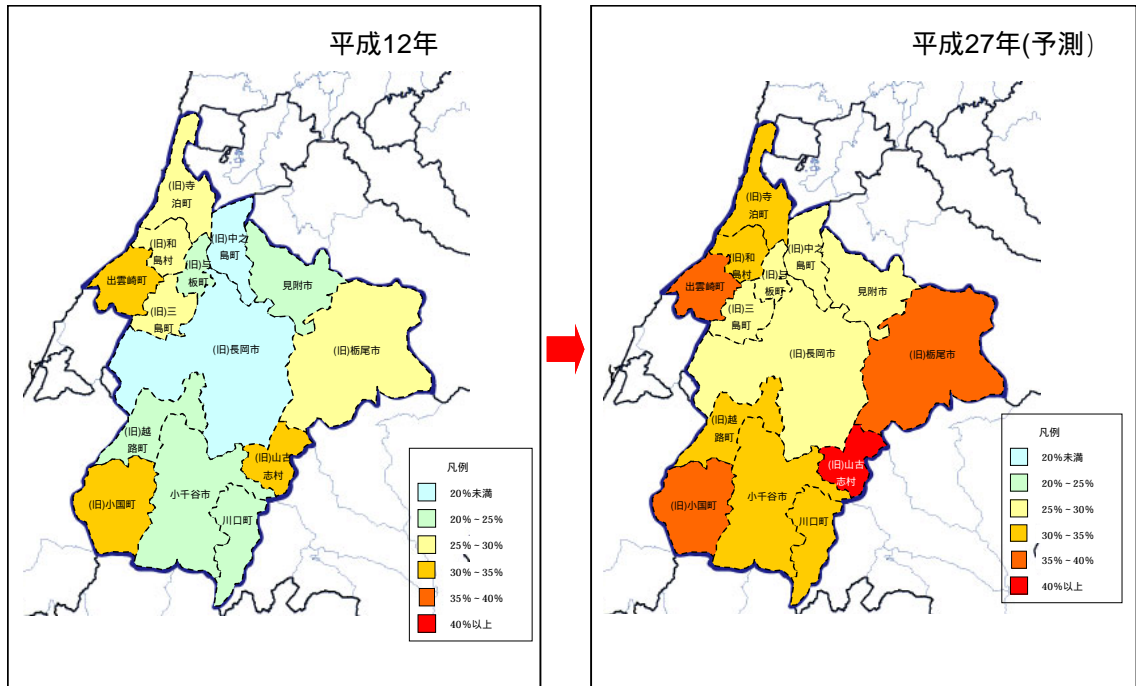
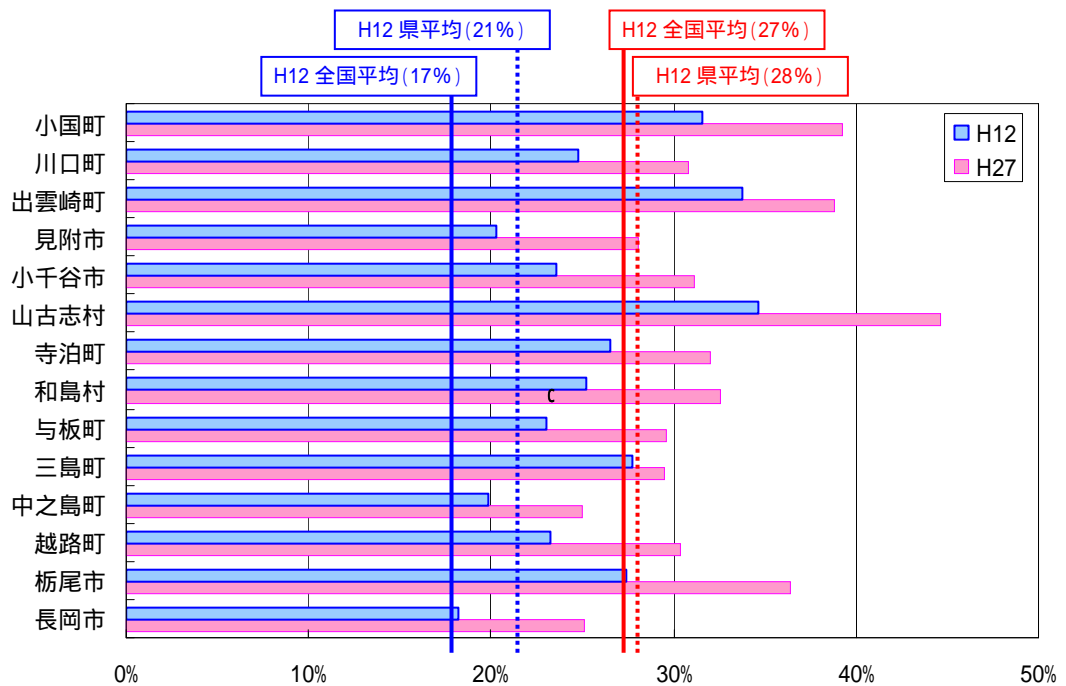


図 5-26 高齢化率(旧市町村別)



【出典】国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所 HP

図 5-27 地域別高齢者割合(旧市町村別)

4) 少子化

周辺部では少子化も進む

長岡都市圏の15歳未満の年少者割合は平成12年で14.9%と、ほぼ県平均(14.8%)と同程度である。将来的な推計では、さらに少子化が進展することが想定されており、平成27年では圏域全体で13.2%となり、県平均(13.0%)や全国平均(12.8%)を上回るものの、長岡市周辺市町では平均を下回ることが想定されている。

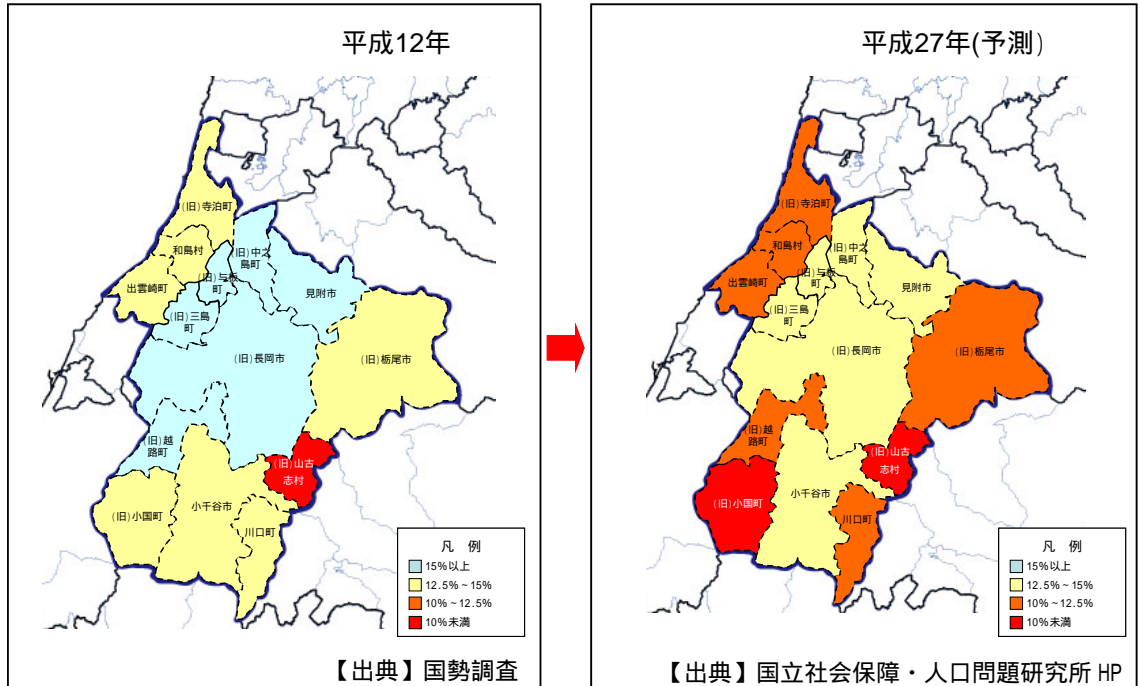
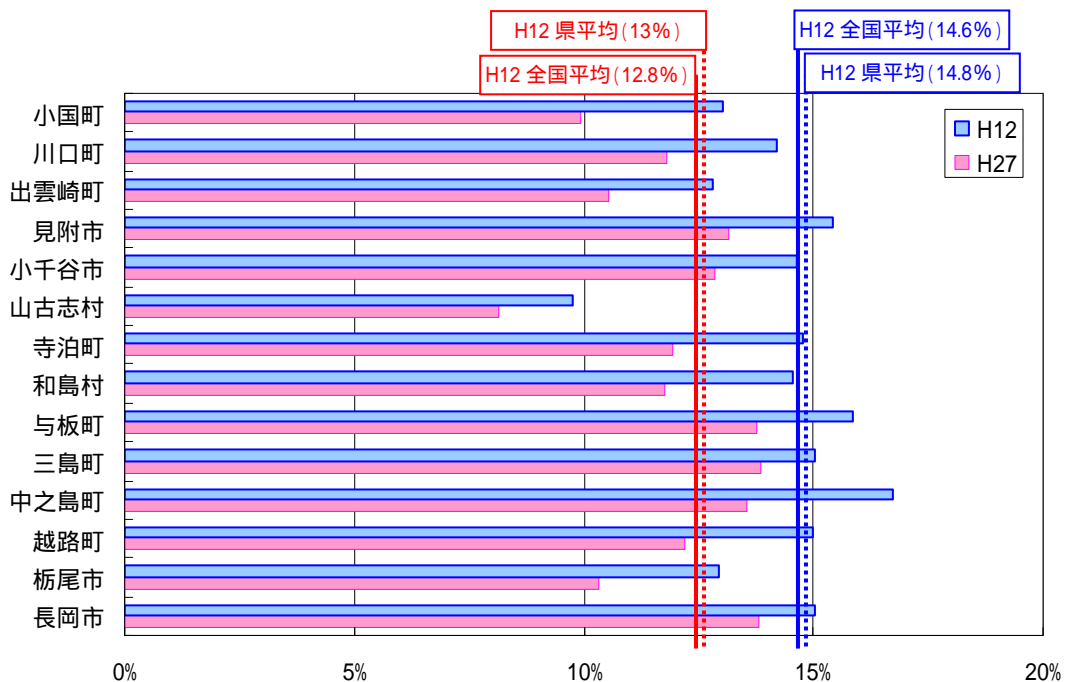


図 5-28 年少者割合（旧市町村別）



【出典】国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所 HP

図 5-29 地域別年少者割合（旧市町村別）

5) 人口流出

就業機会等を理由とした若い世代の社会減少が進展

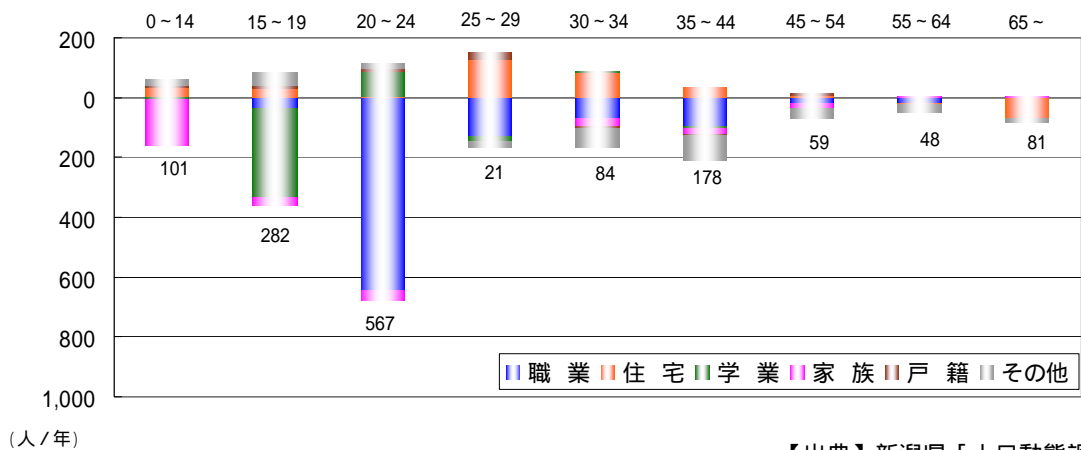
長岡都市圏の社会動態は、近年一貫して減少傾向にある。(図 5-31、図 5-32 参照)

平成 19 年の年代別・理由別動態では、20 代の就業のための転出超過及び 10 代後半の学業のための転出超過が顕著であるが、20 代後半～30 代前半の住宅を理由とする転入が超過している。

理由別社会動態の推移では、基本的に職業・学業で転出超過、住宅で転入超過の傾向。ただし、平成 17 年では震災の影響で住宅理由でも転出超過となっている。(図 5-31 参照)

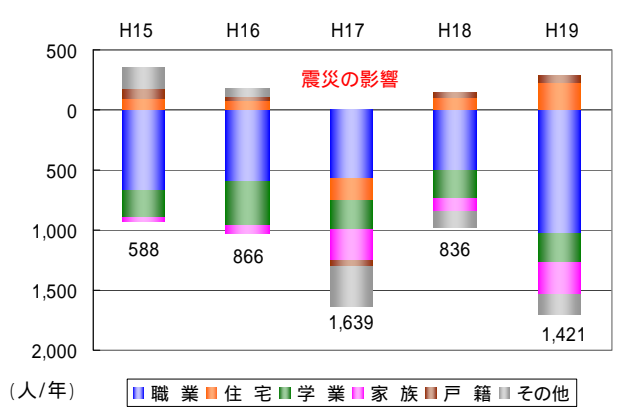
年代別社会動態の推移では、平成 15 年では 20 代後半から 30 代前半の子育て世代の転入超過が見られたが、平成 19 年では全ての世代での転出超過に転じている。

長岡市では県平均に比べ合計特殊出生率が高い一方で、少子化傾向を示しており、14 歳未満の転出は家族の転勤等による社会減となっている。(図 5-30 参照)現在の人口を維持するためには、合計特殊出生率 2.07 (2003 年人口置換水準)を維持する必要があるが、圏域内の出生水準の高い川口町でも 0.8 ポイント低い。(図 5-33 参照)



【出典】新潟県「人口動態調査」

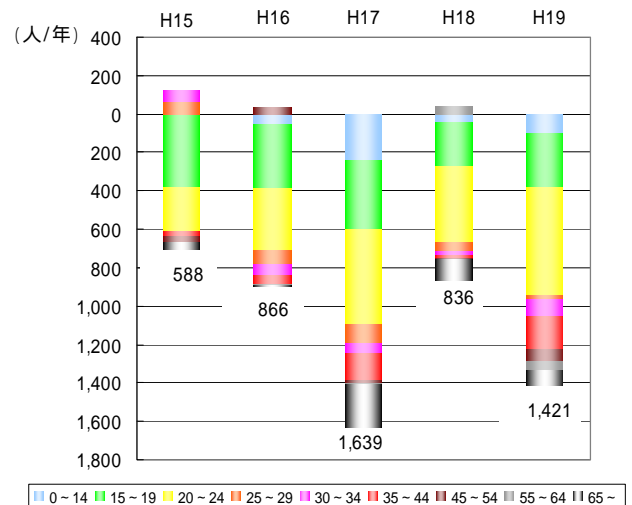
図 5-30 年代・社会別社会動態 (平成 19 年)



年代別・理由別の区分による社会動態(転入-転出者数)を示す。プラスは転入超過、マイナスは転出超過
グラフ中の数字は、各合計の転出入数

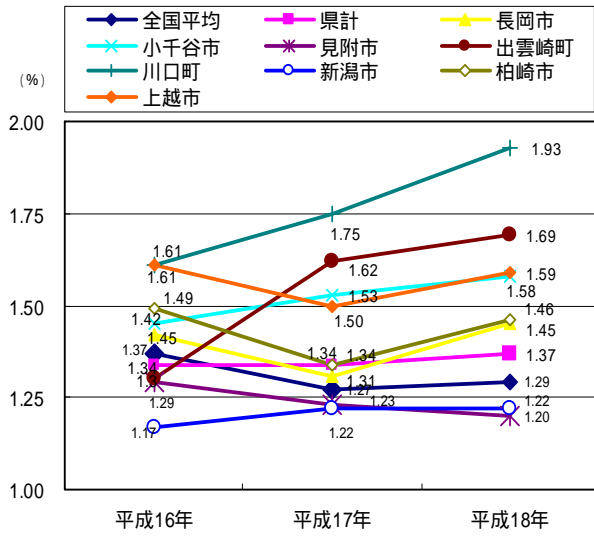
【出典】新潟県「人口動態調査」

図 5-31 理由別社会動態の推移



【出典】新潟県「人口動態調査」

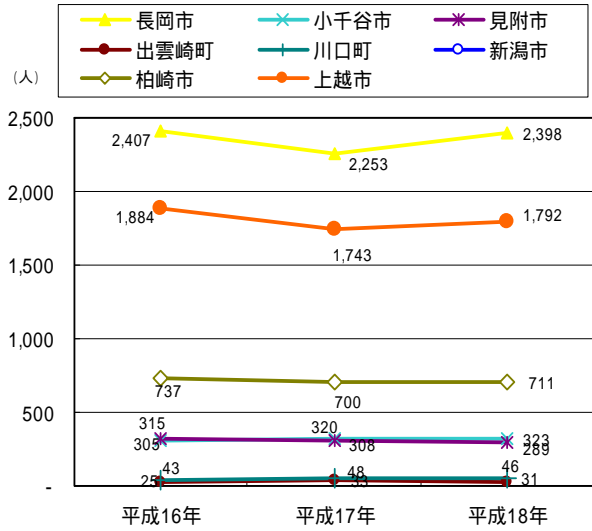
図 5-32 年齢別社会動態の推移



人口置換水準：人口が制止する合計特殊出生率の水準。2003年では2.07

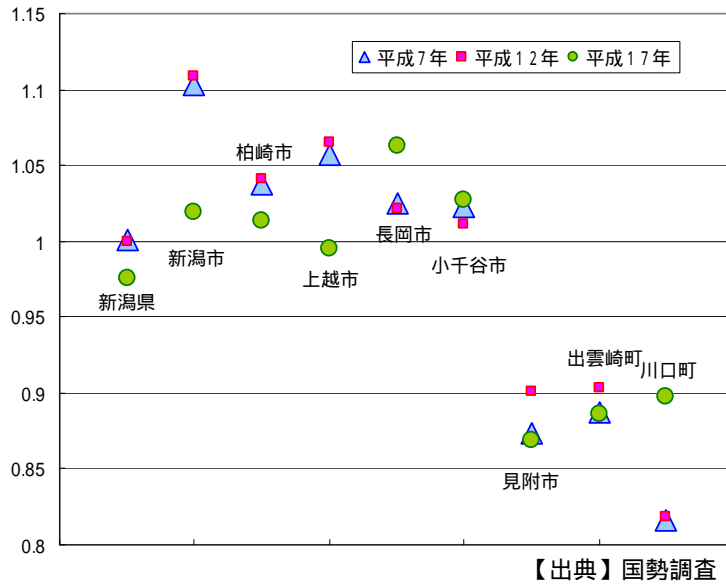
【出典】新潟県「福祉保健年報」「人口動態調査」

図 5-33 合計特殊出生率



【出典】新潟県「福祉保健年報」「人口動態調査」

図 5-34 出生数



【出典】国勢調査

図 5-35 昼夜間人口比率の推移

昼夜間人口比率：地域の常住人口に通勤・通学による流入を加えさらに通勤・通学で流出する人口を（昼間人口）をその地域の常住人口（夜間人口）で除した比率。1を超えると昼間に流入過多となる。

(7) 産業の状況

1) 産業の構造

製造業の割合が全国に比べ高い長岡都市圏

長岡市の産業は比較的均衡しており、製造業が全国に比べてやや多い構成となっている。また、新潟市とは構成も推移も同様の傾向を示しており、製造業への期待は大きい。一方、出雲崎町、川口町では第一次産業の構成比率が高い。

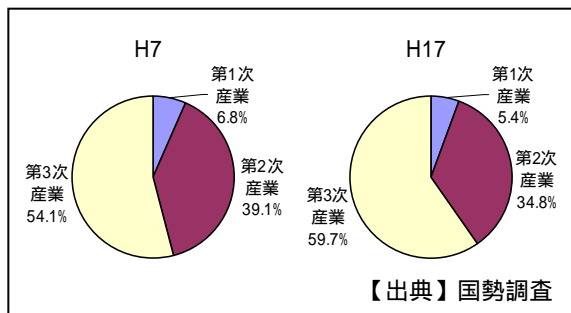


図 5-36 産業構成（長岡市）

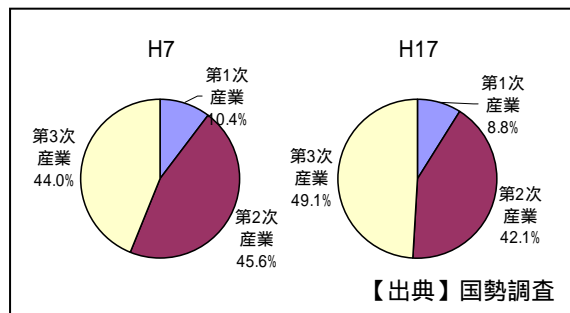


図 5-37 産業構成（小千谷市）

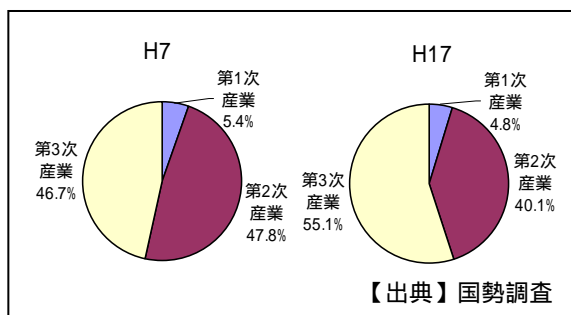


図 5-38 産業構成（見附市）

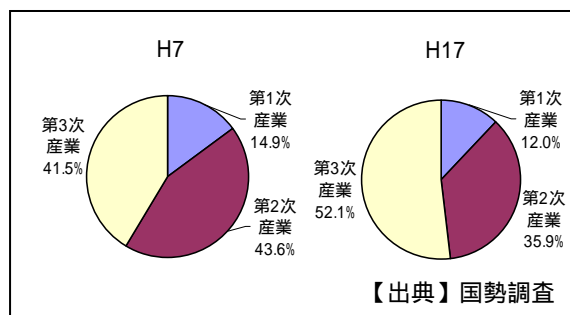


図 5-39 産業構成（出雲崎町）

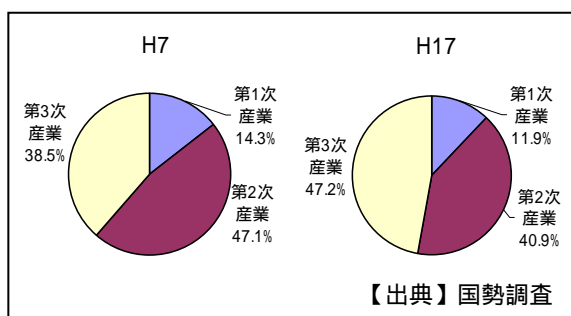


図 5-40 産業構成（川口町）

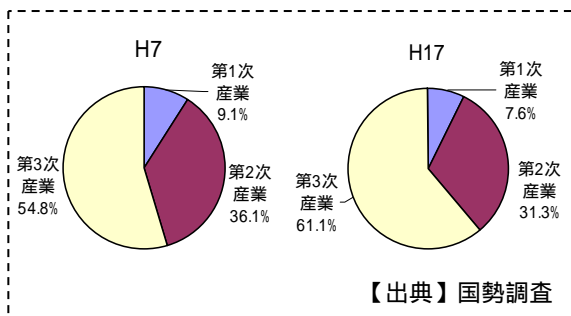


図 5-41 産業構成（新潟県）

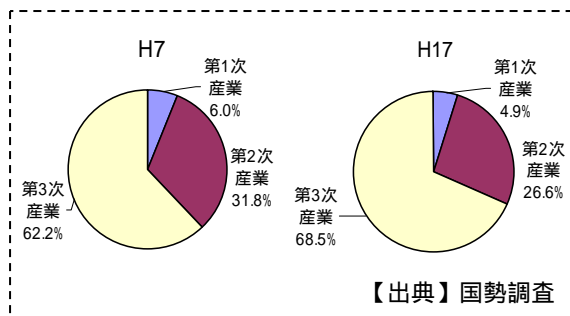


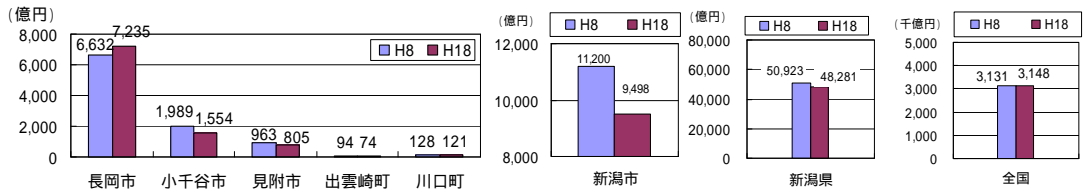
図 5-42 産業構成（全国）

2) 工業・農業の状況

製造業の伸びを示す長岡市

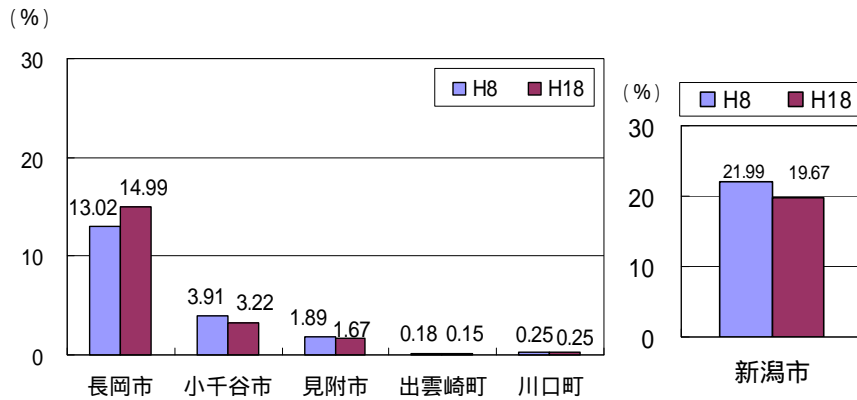
工業では、一般機械器具、精密機器などを中心とする長岡市で製造品出荷額が増加している反面、他市町では減少傾向にある。

一方、農業では米やさといも、レンコンなどの野菜、肉牛などの畜産が行われているが、産出額、農家数共に減少傾向にあり、長岡市や川口町では新潟県全体に比べ大幅に減少しており、見附市のみが唯一増加している。



【出典】工業統計

図 5-43 製造品出荷額



【出典】工業統計

図 5-44 製造品県内シェア

表 5-5 工業の状況

	長岡市	小千谷市	見附市	出雲崎町	川口町
主要品目	一般機械器具 21.6%、精密機械 16.7%、電子部品・デバイス 16.5%	一般機械器具 38.9%、食料品 19.3%、電子部品・デバイス 16.7%	一般機械器具 17.1%、金属製品 15.9%、衣服その他の繊維 10.9%		
主要企業	クリーンテクノロジー(株)、マコー(株)、ヨネックス(株)新潟生産本部	三洋半導体製造(株)、日本ベアリング(株)、パナソニックコミュニケーションズ新潟事業場	トッキ(株)見附工場、(株)タツミ		

【出典】工業統計、東洋経済「都市データパック」2008

表 5-6 農業の状況

	長岡市	小千谷市	見附市	出雲崎町	川口町	新潟県	全国
農業産出額 (北陸農政局新潟統計情報所「新潟農林水産統計年報(農林編)」)	294億円(H10) 222億円(H18) (24.5%)	65億円(H10) 58億円(H18) (10.8%)	41億円(H10) 49億円(H18) (19.5%)	12億円(H10) 12億円(H18) (-)	13億円(H10) 10億円(H18) (23.1%)	3,330億円(H10) 2,964億円(H18) (11.0%)	
農家数 (農林業センサス)	14,454(H7) 10,911(H17)	2,968(H7) 2,597(H17)	1,686(H7) 1,541(H17)	524(H7) 395(H17)	687(H7) 544(H17)	128,901(H7) 106,528(H17)	5,642,509(H7) 2,848,166(H17)
主要産品	米・さいも・ねぎ・枝豆・れんこん・ぎんなん・アスパラガス	水稲、肉牛、西瓜、カリフラワー、メロン、ハウスきのこと、ユリ切り花	米、レンコン、ブドウ、養豚、クリ、ユリ、大豆	米、しいたけ、牛乳	米、えのきだけ、アスパラガス、西瓜、マコモタケ		

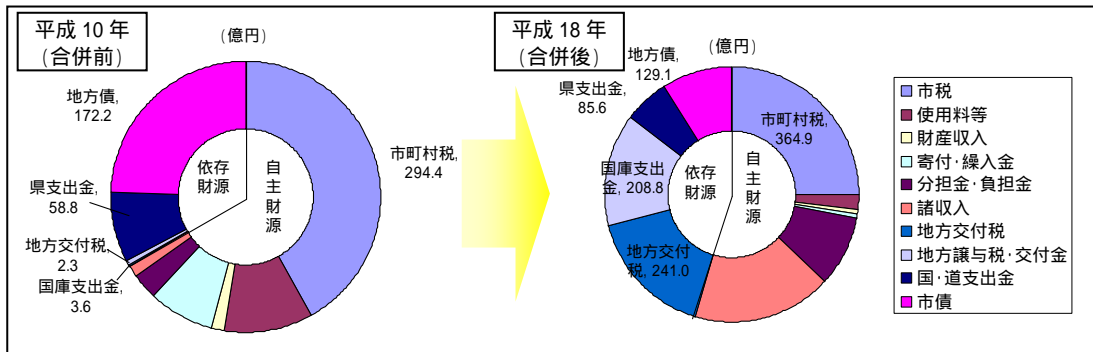
【出典】新潟県統計年鑑、農林業センサス 2005

(8) 自治体財政

1) 自主財源比率の状況

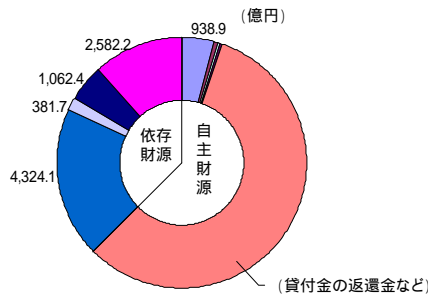
改善途上にある財政

合併により長岡市の財政は依存財源が増加し、財政健全化の途上にある。歳入に占める自主財源は長岡市、見附市で半分以上を占めているものの、その他の自治体では50%を割り込んでおり、財政力指数は低減している。今後一層の公債費の圧縮に努め、財政の健全化に取り組む必要にせまられている。



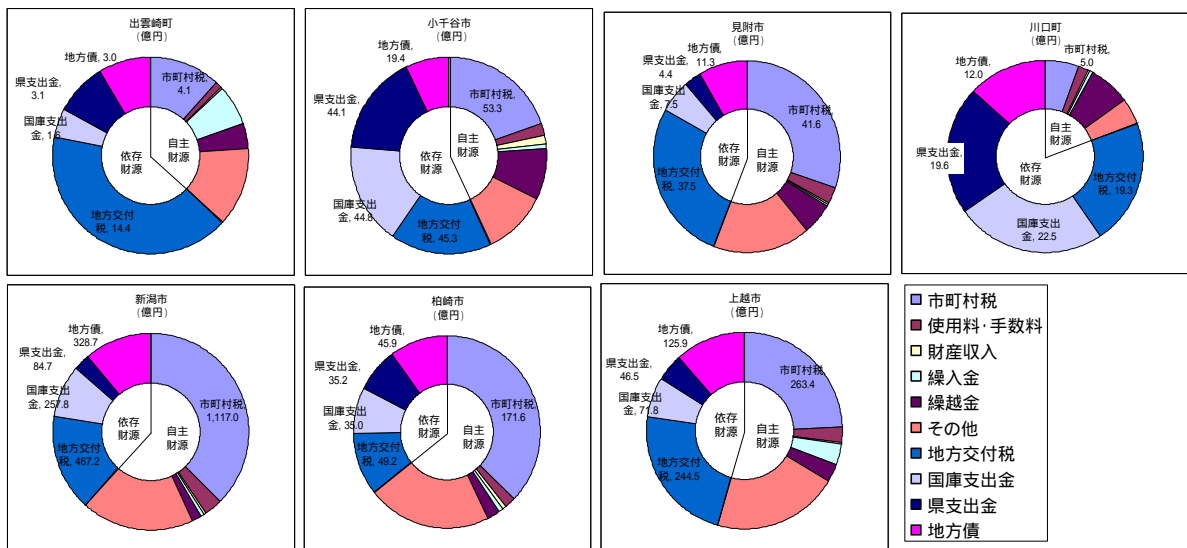
【出典】新潟県統計年鑑

図 5-45 市収入に占める自主財源の比率（平成 18 年、長岡市）



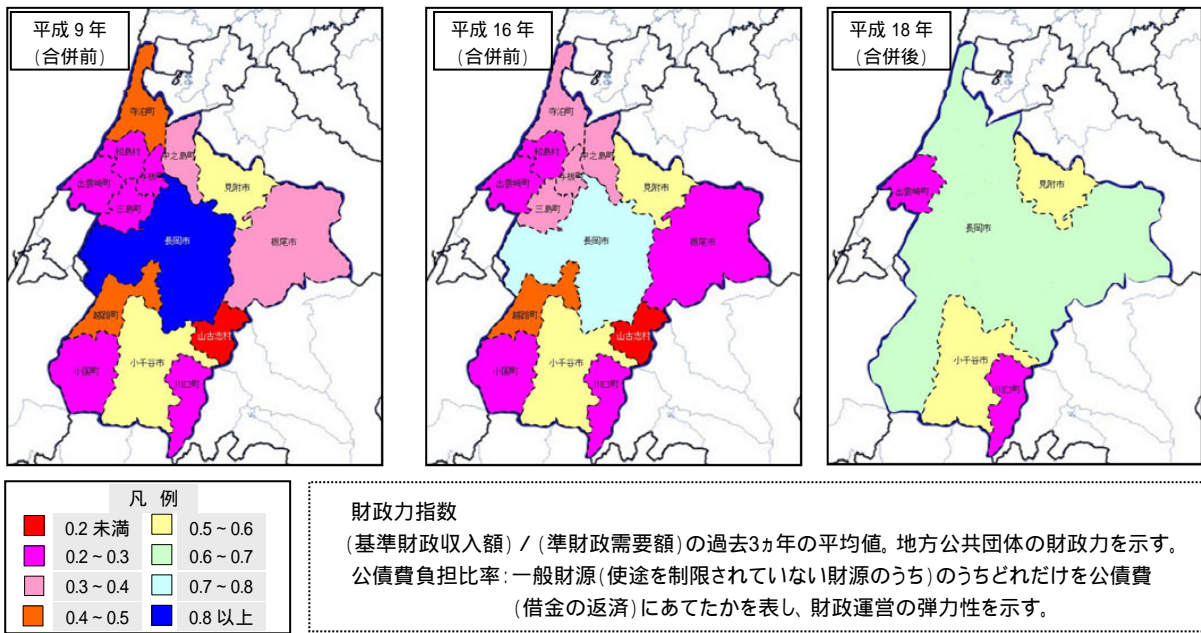
【出典】夕張市 HP

図 5-46 夕張市における一般会計歳入額の構成（平成 18 年）



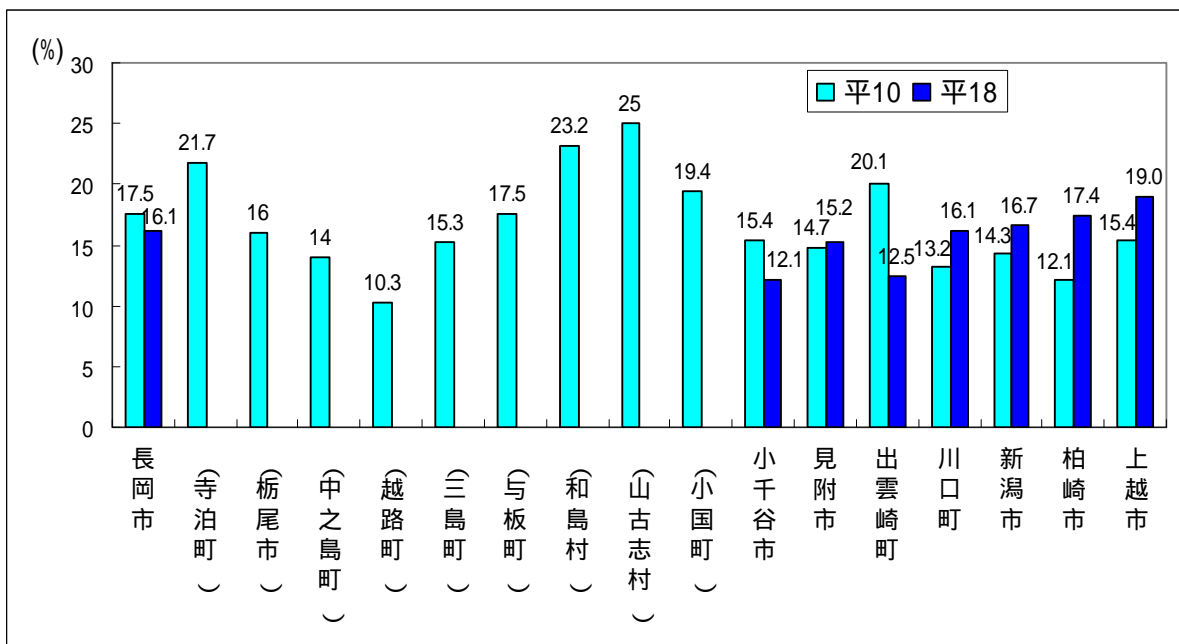
【出典】新潟県統計年鑑

図 5-47 市町村収入に占める自主財源の比率（平成 18 年）



【出典】市区町村決算ランキング H17

図 5-48 財政力指数の状況



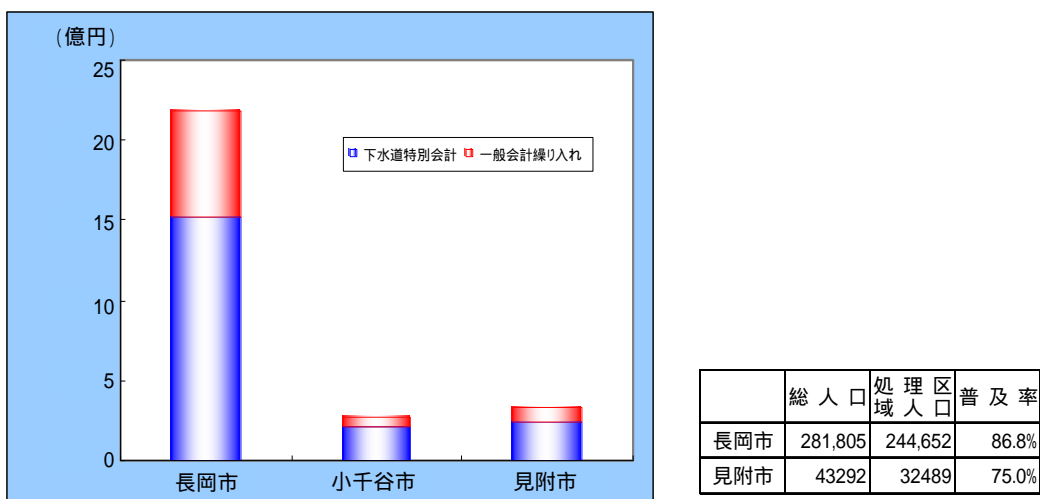
【出典】新潟県統計年鑑

図 5-49 公債費負担比率の状況

2) 主な支出項目の状況

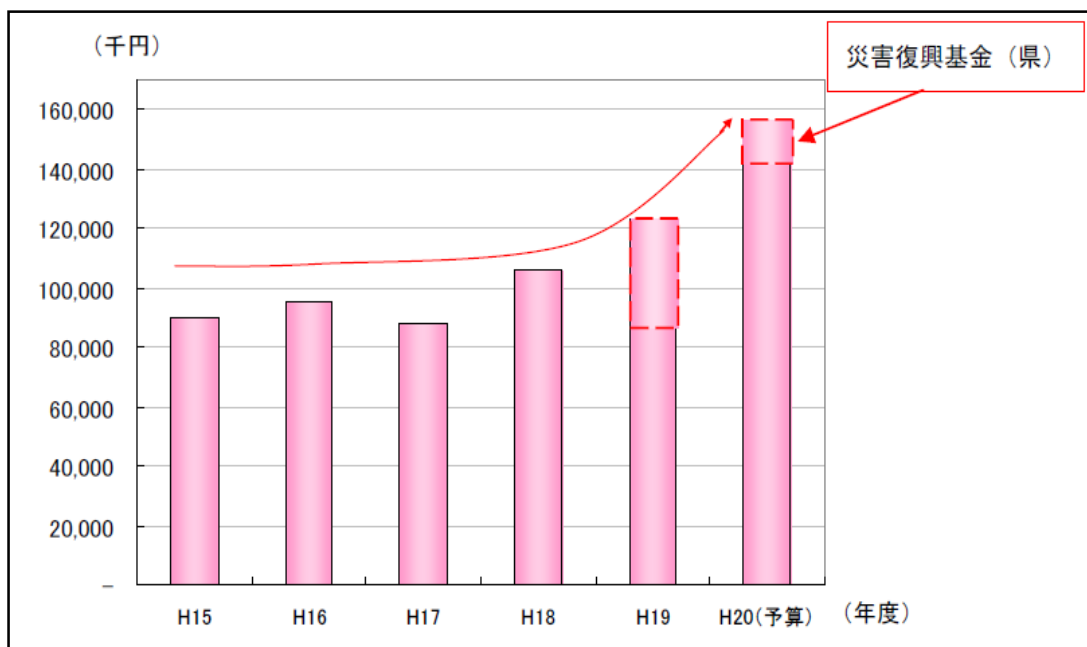
財政健全化に伴う行政サービスの抑制

財政の健全化に取り組む一方、路線バスの維持や道路の維持コストの増大が懸念される。すでに下水道では、下水道会計に一般会計からの繰り入れを行いながら、下水道を維持管理している状況である。今後、行政サービスの抑制が進行するものと予想される。



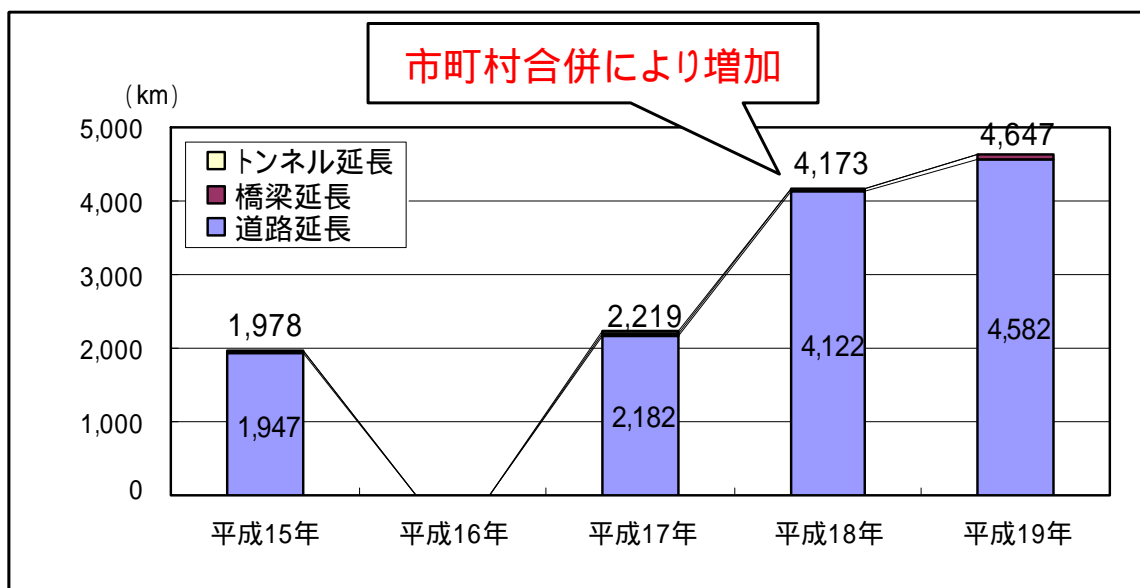
【出典】新潟県「市町村別決算状況表（H18）」、各市HP

図 5-50 下水道会計への一般会計からの繰り入れの増加



【出典】長岡市HP

図 5-51 増加を続ける路線バスへの補助金の増加



平成 16 年はデータ欠測

【出典】長岡市統計年鑑（平成 19 年度版）

図 5-52 増加を続ける道路管理延長（長岡市）